

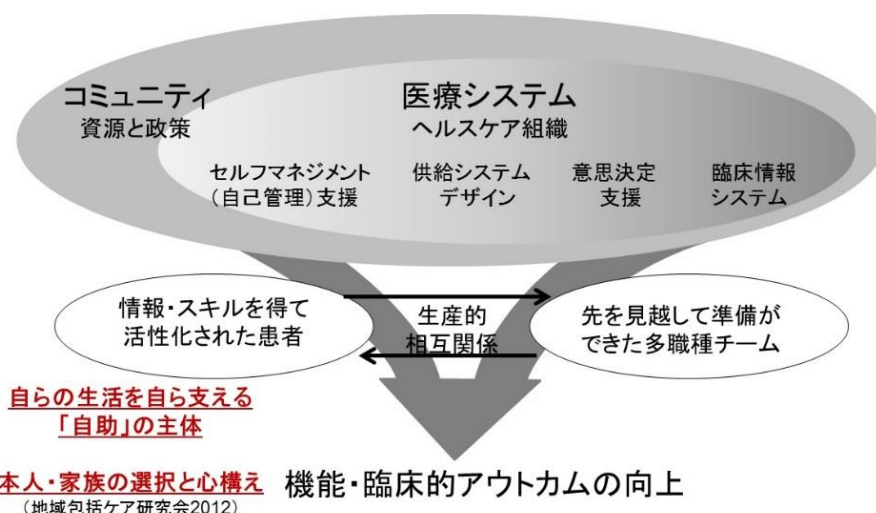
## シンポジウム 5：地域包括ケア時代に在宅医療がなすべきこと

<b>演題名</b>	地域包括ケアの担い手を考える—支えあい育みあうまちづくり
------------	------------------------------

### 概要

地域包括ケアをめぐる潮流とあわせ、諸外国におけるケアの担い手をめぐる施策・研究の動向を概観する。

とくに、Wagner らの慢性疾患ケアモデル（下図）を紹介することにより、複数の慢性疾患を抱えながら地域で暮らす者が増加するなか、健康概念・支援観が変化し、患者—専門職関係が変容を遂げ、専門職に新たなコンピタンスが求められつつあることを示す。ケアは、支えあい、育みあうまちづくりに通じる。



住み慣れた地域での尊厳ある暮らしを支えるには、地域住民に伴走し、地域社会を強化しつつ、連携を促す地域医療・地域看護「機能」を中核とする地域包括ケアチーム（多主体多職種協働チーム）のデザインが重要となる。各地域の文脈に即したチームのあり方を考えてみたい。最後に、ケア領域を通じた、職業プロフィールと資格プロフィールの継続的な発展に向けたプラットフォームを展望する。